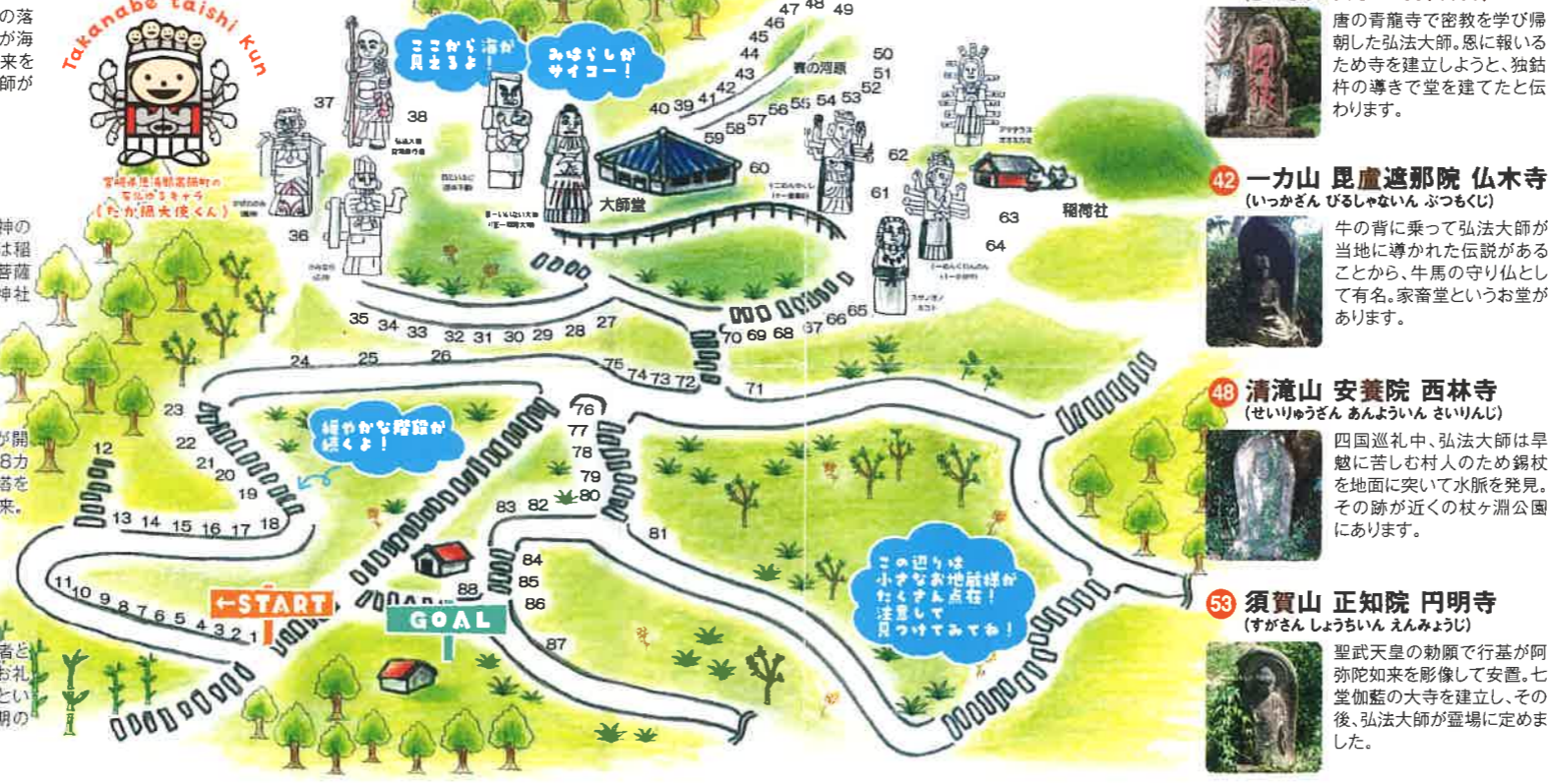


- 2 日照山 無量寿院 極楽寺 (にっしょうざん むりようじゅいん ごくらくじ) 弘法大師が修行中に現れたという阿弥陀如来の姿を彫り本尊としました。大師お手植えとされる樹齢1200年の長命杉がそびえます。
- 3 亀光山 釈迦院 金泉寺 (きこうざん しやくがいん こんせんじ) 弘法大師が早稲に苦む村人のために井戸を掘り、そこから黄金の霊水が湧き出たことから寺名の由来。源義経が立ち寄りたと伝わります。
- 4 黒巖山 遍照院 大日寺 (こくがんざん へんじょういん だいにちじ) 9世紀の創建。弘法大師が修行中、大日如来を感得し如来像を彫像。西国三十三観音霊場の木造観世音像三十三体を安置。
- 5 無尽山 莊厳院 地藏寺 (むじんざん しょうごいん じざうじ) 弘法大師が彫った勝軍地藏菩薩が本尊。軍馬にまたがる勇ましい姿に天皇家や源頼朝から武將の信仰を集めました。
- 7 光明山 蓮華院 十楽寺 (こうめいざん れんげいん じゅうらくじ) 人にふりかかる苦難に10の光明と輝く楽しみが得られるようにと命名。境内の治眼疾目救済地藏尊は眼の病に悩む人に霊験あらたか。
- 9 正覚山 菩提院 法輪寺 (しょうかくざん ぼだいいん ほんりんじ) 弘法大師が巡教した際、仏の使いとされる白蛇を見つけたことから開基。本尊の涅槃釈迦如来像などが5年に一度開帳されます。
- 11 金剛山 一乘院 藤井寺 (こんごうざん いちじょういん ふじいでら) 弘法大師42歳の時、護摩修法を行い、薬師如来を彫像して安置しました。境内には大師お手植えと伝わる藤の古木も。
- 12 摩盧山 正寿院 焼山寺 (まろざん しょうじゅいん しょうざんじ) 標高938mの焼山寺山8合目付近にあります。弘法大師の巡教を火事を起こして妨害した大蛇を、祈願して封じ込めたといわれます。
- 13 大栗山 花蔵院 大日寺 (おぐりざん げそういん だいにちじ) 空から舞い降りた大日如来の像を弘法大師が彫像して寺を開基。江戸時代一の宮の別当として再建され、神仏融和の姿が残ります。
- 15 薬王山 金色院 國分寺 (やくおうざん こんじきいん くにぶんじ) 天平年間、聖武天皇の勅令により全国に建立された国分寺のひとつ。弘法大師が巡教し四国霊場になりました。
- 16 光輝山 千手院 観音時 (こうこうざん せんじゅいん かのんじ) 行基が建立し、その後、弘法大師が寺を再興しました。大正時代、ご利益が目に見えるようになった信者のエピソードが残ります。
- 17 瑠璃山 真福院 井戸寺 (るりざん しんぶくいん いどじ) 聖徳太子作と伝わる如来座像をまつります。弘法大師が訪れた際、水不足に悩む村民のために井戸を掘ったことが寺名の由来です。
- 19 橋池山 摩尼院 立江寺 (はしうざん まんにいん たつえじ) 聖武天皇が光明皇后の安産を願い、行基が創建。本尊の延命地藏尊は「子安の地藏尊」として安産・子育ての信仰を集めます。
- 20 靈鷲山 宝珠院 鶴林寺 (りょうじゅうざん ぼうじゅいん かつりんじ) 雄雉の鶴が小さな黄金の地藏像を守るように舞い降りる姿に弘法大師は心動かされ、自ら彫った地藏像に黄金の地藏像を納めました。
- 21 舎心山 常住院 大龍寺 (しゃしんざん じょうじゅういん たいりゅうじ) 標高618mの太龍山山頂近くに位置。弘法大師が19歳の時に難行を行った「舎心嶽」という岩上にブロンズ製大師像があります。
- 22 白水山 医王院 平等寺 (はくすいざん いおういん びょうどうじ) 弘法大師が修行中、薬師如来の姿を感得し、加持水を求めて井戸を掘ったところ、白い水が湧出。「弘法の霊水」として知られます。

- 23 医王山 無量寿院 薬王寺 (いおうざん むりようじゅいん やくおうじ) 本堂に向かう「女厄坂」が33段、「男厄坂」が42段、「還暦厄坂」が61段続き、経を唱え一段のぼるごとに賽銭をあげる厄除が有名。
- 25 宝珠山 真言院 津照寺 (ほうじゅうざん しんごんいん したしょうじ) 土佐初代藩主・山内一豊の乗った船が遭難しかけた際、本尊の地藏菩薩が僧の姿で現れ、船を安全に導いた伝説が残ります。
- 26 八葉山 求聞持院 禅師峰寺 (はちようざん ぐもんぢいん ぜんじふくじ) 土佐沖を航行する船の安全を願い、弘法大師が十一面観音菩薩を彫像。地元漁師に「船魂の観音」と親しまれます。
- 28 法界山 高照院 大日寺 (ぼうがいざん こうしょういん だいにちじ) 聖武天皇の勅命で行基が開創したもの、やがて荒廃。弘法大師が橋に薬師如来を彫って復興したと伝わります。
- 30 百々山 東明院 善楽寺 (ひやくざん とうめいいん ぜんらくじ) 一帯は土佐でも古くから栄えた地。土佐国の総鎮守・高島大明神の別当寺として弘法大師が開創し四国巡礼の地に決めました。
- 31 五台山 金色院 竹林寺 (ごたいざん こんじきいん ちりんじ) 聖武天皇が行基に命じ文殊菩薩を本尊として建立。その後、弘法大師が堂塔を修復し信仰と文化の中心地として栄えました。
- 32 八葉山 求聞持院 禅師峰寺 (はちようざん ぐもんぢいん ぜんじふくじ) 土佐沖を航行する船の安全を願い、弘法大師が十一面観音菩薩を彫像。地元漁師に「船魂の観音」と親しまれます。
- 34 本尾山 朱雀院 種間寺 (もとのおざん しゅくじゃいん たねまじ) 6世紀、大阪・四天王寺の落慶式に来た百濟の皇子が海上安全を願って薬師如来を彫像。200年後、弘法大師が本尊としました。
- 36 独鈷山 伊舎那院 青龍寺 (どっこざん いしゃな いん しょうりゅうじ) 唐の青龍寺で密教を学び帰朝した弘法大師。恩に報いるため寺を建立しようと、独鈷杵の導きで堂を建てたと伝わります。
- 37 藤井山 五智院 岩本寺 (ふじいざん ごちいん いわもとじ) 天平時代の建立。その後、弘法大師が不動明王像、観音菩薩像、阿彌陀如来像、薬師如来像、地藏菩薩像を本地仏としました。
- 38 嗟駝山 補陀洛院 金剛福寺 (さだざん ぶたらくいん こんごうふくじ) 足摺岬から見た大海岸に聖地・補陀落の世界を感じた弘法大師は伽藍を建立。札所間の距離が長く、「修行の場」という趣です。
- 39 赤龜寺 山院 延光寺 (しゃつきざん さんいん えんこうじ) 竜宮城の赤亀が梵鐘を背負ってきた伝説の寺。弘法大師が菩薩を安置した際、霊水が湧出。「眼洗い井戸」として知られます。
- 41 稻荷山 護国院 龍光寺 (いなりざん ごこいん りゅうこうじ) 白髪の老人を五穀大明神の化身と悟った弘法大師は稲荷明神像と十一面観音菩薩像を彫像。境内に稲荷神社が鎮座します。
- 42 一方山 毘盧遮那院 仏木寺 (いつかざん びるしゃないん ぶつもくじ) 牛の背に乗って弘法大師が当地に導かれた伝説があることから、牛馬の守り仏として有名。家畜堂というお堂があります。
- 43 源光山 円手院 明石寺 (げんこうざん えんしゅいん めいせきじ) 唐からの渡来仏・千手観音像が本尊。弘法大師が再興し、鎌倉時代には源頼朝が阿彌陀如来像を奉納しています。
- 45 海岸山 岩屋寺 (かいがんざん いわやじ) 本堂は標高700mの山中。弘法大師は不動明王を彫像し修行しました。13世紀には一週上人も修行したと伝わります。
- 46 医王山 養珠院 浄瑠璃寺 (いおうざん ようじゅいん じょうりゆじ) 奈良時代、行基が建立。その後、弘法大師が霊場としました。仏手・仏足石が安置され、延命・豊作にご利益が。
- 47 熊野山 妙見院 八坂寺 (くまのざん みょうけんいん やさかじ) 修験道の開祖・役小角が開基。聖武天皇の勅願で、8カ所の坂道を切り開き堂塔を建立したことが寺名の由来。
- 49 西林山 三蔵院 浄土寺 (さいりんざん さんざういん じょうどじ) 天平年間、行基が開基し弘法大師が再興しました。阿彌陀仏を唱えて全国を行脚した空也上人が3年間逗留しています。
- 50 東山 瑠璃光院 繁多寺 (ひがしやま りゅうこういん はんたじ) 瀬戸内海まで一望できる高台に位置。巡礼に訪れた弘法大師が霊場に定めました。時宗の開祖・一週上人も修行しています。
- 51 熊野山 虚空蔵院 石手寺 (くまのざん こくうざん しいてじ) 伊予の豪族が熊野権現をまつり、その後、行基が薬師如来像を本尊としました。国宝の二王門をはじめ壮麗な伽藍が並びます。
- 52 龍雲山 護持院 太山寺 (りゅううんざん ごぢいん たいざんじ) 6世紀、豊後の真野の長者という人物が航海安全のお礼に一夜で御堂を建てたといわれています。本堂は鎌倉初期の建立で国宝。
- 53 須賀山 正知院 円明寺 (すがざん しょうちいん えんみょうじ) 聖武天皇の勅命で行基が阿彌陀如来を彫像して安置。七堂伽藍の寺を建立し、その後、弘法大師が霊場に決めました。
- 54 近見山 宝鐘院 延命寺 (ちかみざん ほうしょういん えんめいじ) 行基が不動明王像を彫像して本尊とし、伽藍を建立しました。その後、弘法大師が嵯峨天皇の命を受け再興しています。
- 55 別宮山 金剛院 南光坊 (べつみやざん こんごういん なんこうぼう) 大三島にある伊代一の宮の大山祇神社創建時に建立された別当寺のひとつでしたが現在地に移動。弘法大師が霊場に定めました。
- 56 金輪山 勅王院 泰山寺 (きんりんざん ちよくわういん たいざんじ) 氾濫する川を鎮めるため、弘法大師が村人と共に築堤。延命地藏菩薩を感得し水没者を供養すると治水が成就しました。
- 57 府頭山 無量寿院 栄福寺 (ふとうざん むりようじゅいん えいふくじ) 近海で海難事故が絶えず、弘法大師が巡礼の折、府頭山山頂で平易を祈願。阿彌陀如来像を本尊としました。
- 59 金光山 最勝院 国分寺 (こんこうざん さいしょういん くにぶんじ) 行基作と伝わる薬師如来像が本尊。弘法大師はここに長期滞在し「五大尊明王」画像を一幅、奉納しました。
- 62 天養山 観音院 宝寿寺 (てんようざん かのんいん ほうじゅじ) 天平時代、大山祇神社の別当寺として建立。弘法大師は光明皇后の姿をかたどった十一面観音を彫像しています。
- 63 密教山 胎蔵院 吉祥寺 (みつぎやうざん たいざういん きちじょうじ) 弘法大師が巡礼の折、光を放つ一本の椿を見つけ毘沙門天を彫像。さらに吉祥天と善膩師童子を彫って安置しました。
- 65 由靈山 慈尊院 三角寺 (ゆりいざん じしんいん さんかくじ) 聖武天皇の勅願で行基が開基。弘法大師が十一面観音を彫像して本尊とし、国家安泰と万民の福祉を祈念しました。
- 67 小松尾山 不動光院 大興寺 (こまつおざん ぶどうこういん だいていじ) 天平時代、奈良・東大寺の末寺として建立され、弘法大師が霊場としました。仁王門にある金剛力士像は運慶作といわれています。
- 69 七宝山 観音寺 (しちほうざん かのんじ) 神慮院と創建も由来も同じですが、弘法大師が七堂伽藍を建立して聖観世音菩薩像を安置して七宝を納め、寺名を改めたといわれています。
- 71 剣五山 千手院 弥谷寺 (けんござん せんじゅいん いやたにじ) 神仏が宿るとい霊山で、弘法大師は少年時代、ここで学問に励みました。境内入口から山頂の本堂まで540段の石段が続きます。
- 73 我拝師山 求聞持院 出釈迦寺 (がはいしざん ぐもんぢいん しゅつしゃくじ) 弘法大師7歳の時、仏門に入ることを願い身を投げた「捨身ヶ嶽」伝説の地。大師が虚空蔵菩薩を安置した「捨身ヶ嶽禅定」があります。
- 74 医王山 多宝院 甲山寺 (いおうざん たはういん こうやまじ) 嵯峨天皇から日本最大の溜め池造成を任せられた弘法大師は、甲山の岩窟で薬師如来像を刻み工事の無事を祈願しました。
- 76 鷲足山 宝鐘院 金倉寺 (けいそくざん ほうしょういん こんくらじ) 弘法大師の甥で天台宗門派の開祖・智証大師の生誕地。智証大師の祖父・和氣道善が建立し、唐から帰朝した智証大師が伽藍を造営。
- 77 桑多山 明王院 道隆寺 (そうたざん みやうわういん だうりゅうじ) 当地の領主が桑の木に小さな薬師如来を彫り草堂を建立。弘法大師が彫像した薬師如来胎内にその像を納めています。
- 78 仏光山 広徳院 郷照寺 (ぶつこうざん こうとくいん ごうしょうじ) 弘法大師が大師自身の像を刻んで厄除を齋願。以来、地元では「厄除うたづ大師」として親しまれています。
- 81 綾松山 洞林院 白峯寺 (りょうしょうざん とうりんいん しらねじ) 弘法大師と甥の智証大師が白峯山山頂に如意宝珠を埋めて堂を建立。智証大師が彫像した千手観音像が本尊。
- 82 青峰山 千手院 根香寺 (あおみねざん せんじゅいん ねこうじ) 青峰山麓に弘法大師が修行の地として花蔵院を建立。後に智証大師が一之瀬明神の御告げで千手観音を彫り安置しました。
- 83 神毫山 大宝院 一宮寺 (しんこうざん だいぼういん いちのみやじ) 奈良仏教の礎を築いた義淵僧正が開いた古刹。弘法大師が聖観世音菩薩を彫像し再興しました。
- 85 五剣山 観自在院 八栗寺 (ごけんざん かんじざいいん やくりじ) 標高375mの五剣山にあり、弘法大師が修行中、五振りの剣が降り注ぎ蔵王権現が現れたと伝わります。
- 86 補陀落山 志度寺 (ぶたらくざん しどじ) 開基は625年と古く、海人族の凡園子が十一面観音を彫って精舎を建てたのが始まり。その後、行基が堂宇を建立しました。
- 87 補陀落山 観音院 長尾寺 (ぶたらくざん かのんいん ながおじ) 行基が開創。弘法大師が唐に渡る前、修行の成功と国家安泰、五穀豊穡を祈願。帰朝後、再訪し供養塔を建立しました。

高鍋大師花守山 八十八ヶ所めぐり



高鍋大師花守山の斜面に佇む八十八ヶ所の霊場のお寺をめぐり、高鍋に居ながらにして八十八ヶ所めぐりが楽しめます。満願成就をめざし、散策してみませんか？

認定NPO法人高鍋町観光協会
〒884-0002 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋5198
TEL:0983-22-5588 FAX:0983-22-5821

